AGC レポート
山岳地理クラブ会報

VOL　24
2009 年 6 月号
発行 2009 年 5 月 27 日
日本山岳会　山岳地理クラブ
URL●www.jac.or.jp/doukoukai/

訂正された山名問題

遠山　元信

埼玉県の奥武蔵に山名混乱ポイントがあった。場所は国土地理院発行二万五千分の一地形図『原市場』図幅上の伊豆ヶ岳(851・4m)から天目指峠間にある三角点(622・7m)のピークと、伊豆ヶ岳寄りにある標高点695mの山名が、この地形図が初めて発行された昭和46年12月から長期間にわたり混乱していた。

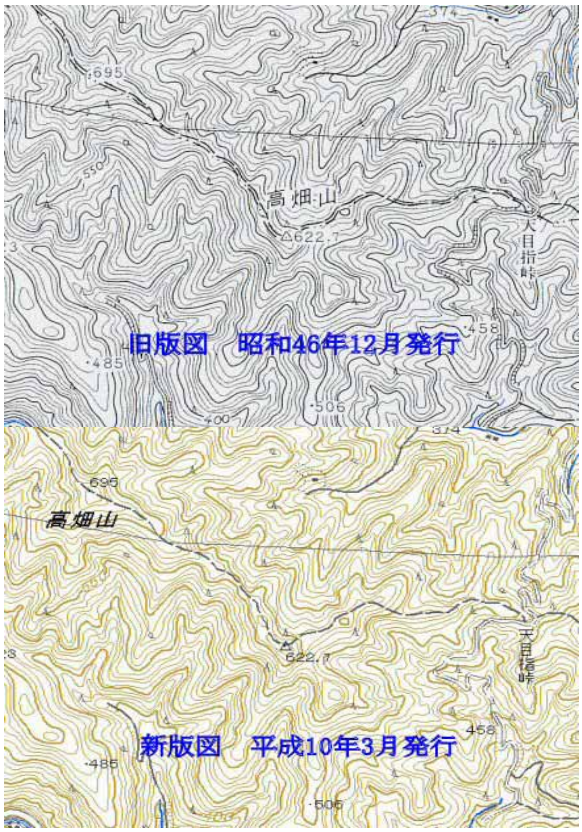
まず地形図上の三角点には「高畑山」、標高点に山名は採用されていなかったが、登山関係のガイドブックやハイキング地図等では三角点に「中ノ沢ノ頭」、標高点に「高畑山」もしくは「ナローの高畑山」が採用されていた。問題はこれだけでなく、標高点のピークにあった関東ふれあいの道の標識に三角点の標高数字が採用され、さらに三角点のピークはルートがピーク北側を巻いてしまうため三角点を確認できない状態で通過、これら各種問題が重複し何も知らない登山者が現地において混乱するばかりであった。

この両ポイントは飯能市と旧名栗村の境界である。そこで飯能市上久通、旧名栗村穴沢、柏木の方々に山名採取をしてみた結果、三角点は「イモグナの頭」、標高点は「高畑山」もしくは「ナローの高畑山」と呼称されていることが判明、登山関係で採用されていた「中ノ沢ノ頭」も、その頭にならず誤っていたことが判った。

平成元年9月5日、仕事で大手町に行った帰り道、当時大手町の合同庁舎にあった国土地理院関東地方測量部に何故か足が向いてしまい、この高畑山問題を報告してきた。昔であれば直訴は御法度であるが、現在の国土地理院は聞く耳を持っていた。そして平成二年になって始まった国土地理院のマップモニター制度にも応募し、マップモニターの報告書としても提出してみた。その結果制度発足後の最初の処理の中に「図名・原市場、高畑山の注記位置訂正、発行H3・12」が含まれていた。しかし平成3年12月になっても地形図に変化がなく、忘れた平成6年になり突然国土地理院から「平成5年７月１日第２版１刷修正版」から位置を訂正した連絡があった。実に22年ぶりの訂正であった。

この地形図上での山名は地元市町村役場に提出を求める地名調書の内容を採用するため、国土地理院に調べてもらったところ二万五千分の一地形図を最初に作成した時、旧名栗村から提出された地名調書で位置が誤っていたことが判明した。このように判明し公開して貰える例は珍しい。

この調査だけで3年以上の月日を要し、訂正されてから15年が経過した。現在では現地標識も変更され混乱は解消されたようである。ただ一つ気がかりなのが、古い地形図、古いガイドブックや文献等を利用した方により、現在の地形図に記載されている位置が逆に違うのではないかと言う異議申し立てが行われる可能性である。那須の三倉・大倉山問題も修正されてから20年以上経た後に、これで新聞沙汰になった。ここでも十分注意していないと再度混乱を招く恐れがあり、それだけは回避していただきたいと考える。



連載　ゆにーく　標識＆標石⑩　旧街道をあるくならば(2)　　道路元標

旧街道を歩くならば、もう一つ注意していただきたいのが道路元標。これは街道沿いに必ず存在するという物ではないが、大正 11 年内務省令により当時の市町村の中心地等に、その市町村名の道路元標という標石を１個設置させた。これは地形図に記載されていないので、街道沿いを注意して歩くか、インターネットでの確認が必要である。確認した時は、もちろん写真撮影を忘れませんように。

（遠山記）

前号記事･高水三山の報告の追記です

谷久保沢の杉の倒木を進む AGC 踏査隊
(ｽﾍﾟｰｽの関係で掲載できませんでした)

登山道情報の提供について（経過報告）

国土地理院との連携による、登山情報の提供に関して、双方の意見交換が定期的に行われている。
前回の打合せ(3/19、宮崎理事,北野,近藤)において、国土地理院より情報提供の流れについて具体的な方針案が示された。それによると会員より寄せられた変化情報等は JAC 本部が収集し、定期的に一括して国土地理院本院に提供するとし、情報提供を受けた処理結果は、年度末に一括して JAC に報告し、必要な場合は出力図の提供を行う。というものである。協力協定書（目的、期間、協力内容、取得情報の権利、免責事項、その他）の締結を経て、平成 21 年度中に実施予定としている。この為、JAC において委員会等の組織を構築する予定であり、総会後の新体制後に具体的な方法が示される。また調査方法や実施においての問題点を探るために近日中に東京近郊（案としては高尾山周辺）において合同で実施してみようということになった。（近藤）

行ってきました

草軽鉄道廃線跡を歩く　　近藤善則

かぶと虫の愛称を持つジェフリー形という珍しい形の機関車が，浅間高原を走る情景から消えて 50 年近くなる。古きよき時代のノスタルジーを掻きたれられ一度は乗ってみたかった草軽鉄道である。自分の車体の何倍もある木造客車を引っ張ってひた走る光景は今や文学作品や映画でしか見ることができないが、この廃線跡を歩く機会を偶然に得たのでさっそく参加してみた。嬬恋村のグループが主催するもので、今回は北軽井沢～国境平間の分水嶺の北側（利根川水系）のを歩いた。

北軽井沢駅跡(左写真)は当時の駅舎が残っており、すぐ横の本屋さんには、関連する書籍が売られている。大学村の別荘地を経て栗平駅跡へ。傍に社宅が残っており元鉄道員の家族が住んでおられるそうだ。二度上(にどあげ)駅にはスイッチバック式の跡を見ることができ、建物跡がかろうじて残っている。(右写真)

そして軽い藪漕ぎをしながら国境平に至った。熊がでると聞きわざと大声で歩いたが、主催者が用意した高価な熊撃退のスプレーを使わなかったのが何より幸いだった。次回は 6 月 13 日に、国境平から南側(千曲川水系)を長日向、小瀬温泉間を歩く予定。（参加希望者の方は 6/3 までに近藤まで連絡ください。参加費 1,000-円保険代込）

雨ニモマケズ・陣馬山――北高尾山稜は次回に

どうも高尾付近への山行は雨に好かれているらしい。今回は陣馬高原・堂所山から北高尾山稜を八王子城への縦走して地図上のピークを数える予定であったが、朝から怪しい雲行きに参加予定者も二の足を踏んだようだ。高尾駅に集まったのは 4 名。とりあえず登山口の陣馬高原下行きのバスに乗った。降るのか降らないのか、はっきりしない天候に、行く先もはっきりしないまま、底沢峠から陣馬山へ向かう。山頂で昼食の間少し晴れ間が覗き、天候が回復するのではとの期待に予定の堂所山へ方向を変更。しかし再び断続的な小雨が続くので北高尾山稜へは次の機会に回すことにし、今日は相模湖駅に下る。

そぼ降る新緑の山道もたまにはいいもんだと、言い訳がましい慰めを自らに語りかける一日であった。(近藤記)　山行日：5 月 24 日(日)　参加者：4 名（北野、鶴田(泰)、高橋、近藤）

例会の議事録

5月定例会記録

2009年5月7日(木)19：00～20：05　於JAC集会室A
出席者7名（北野、平野、半田（明）、高橋、鶴田（泰）、川口、今井（順不同））
内容：①4月19日（日)に行われた会山行（谷久保沢経由惣岳山）の報告。詳細は AGC レポートvol. 23参照。（北野）　②AGC7月定例会日程の変更。会場の都合で7月2日（木）に変更せざるを得ないことになったので理解いただきたい。次回6月3日（水）は通常の第一水曜日で変更はない。（北野）　③6月22日（月)に例年の同好会連絡会を行う旨、総務委員会から連絡があったので参加する。（北野）　④次回会山行は5月24日（日）に北高尾山稜（堂所山～八王子城跡）のピークを数える縦走を行う。8時50分 JR 高尾駅北口1番バス停発車のバスに乗車するので奮って参加願いたい。（北野）終了後「什番」で懇親会(7名)。　以上　(記録：今井)

――――――― お 知 ら せ ―――――――

◆次回の例会

日時　**２００９年7月1日（水）**　18：30 から
於：山岳会　ルーム
テーマ：地形図調査、山行報告ほか

AGC レポート　vol-24　2009 年 5 月 27 日発行
発行：日本山岳会・山岳地理クラブ（代表・北野忠彦）
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会　気付
TEL　03-3261-4433　　FAX　03-3261-4441
編集担当：近藤　　E-mail：hikarikon@nifty.com